

大正の肖像画

作 吉永仁郎

演出 高橋清祐

補演出 中島裕一郎

装置 勝野英雄

照明 松島勉

衣裳 宮本宣子

効果 岩田直行

美術 深川絵美

舞台監督 藤澤徹

伊藤孝雄

小杉勇二

松田史朗

千葉茂則

境賢一

みやざこ夏穂

梶野稔

岡山甫

塩屋洋子

白石珠江

河野しずか

印南唯



描くことは生きること、愛すること——
洋画家・中村彝と「中村屋サロン」に集う人びとが織りなす二時代のポートレート

大正の肖像画

作 吉永仁郎
演出 高橋清祐
補演出 中島裕一郎

劇団民藝

彗星のように画壇に現れ、大正期に活躍した洋画家・中村彝。肺結核に侵されながらも画業に励み、新進の作家として注目された頃の彝が縁あって住むことになったのは、中村屋裏のアトリエでした。新宿の老舗中村屋の創業者、相馬愛蔵・良（黒光）夫妻がパン屋をこの地に移したのが明治四十二（一九〇九）年。急速に発展した新宿という地の利を得て店は栄え、美術家、詩人、小説家、学者、俳優などが出入りする文化サロンの役割を果たしていたのです。はじめサロンの女王相馬良に惹かれた彝の気持が、夫妻の娘俊子に移ったことから、やがて彝は中村屋を去ることに。彝を待っていたのは、病苦と孤独に耐え、命を賭して更なる高みを目指した苦闘の日々でした……。

『静かな落日』集金旅行の吉永仁郎氏による評伝劇。初演時には「百年近くも前に、流されず、自分たちの心や魂に忠実に生きた人びとがいたことに感動」吉永戯曲の重厚さと品格が今回も光っていました。などの声が寄せられました。激動の昭和を目前にして薄日の差しただ大正の時代をさまざまに生きた人びとの姿が、遺された数々の肖像画とともに生き生きと蘇ります。



相馬愛蔵「中村屋の主人」

伊藤孝雄



中原悳二郎「彫刻家」

小杉勇二



エロシエンコ「放浪のロシア人」

千葉茂則



大杉栄「無政府主義者」

境賢一



岡崎キイ「彝の家政婦」

塩屋洋子



相馬良「愛蔵の妻」

白石珠江



相馬俊子「相馬夫妻の娘」

印南唯



古川巡査「大杉の尾行」

梶野稔



宮田巡査「大杉の尾行」

松田史朗



中村彝「画家」

みやざこ夏穂



神近市子「大杉の協力者愛人」

河野しずか



山村巡査「エロシエンコの尾行」

岡山甫